

【No.R●-●-●】 みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 福井地区園芸タウン推進協議会
都道府県 福井県
対象地域 福井市、永平寺町
対象品目 カボチャ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

福井地区（福井市・永平寺町）では、米に代わる作物として水田を活用したカボチャ栽培を推進している。しかし、化学肥料や化学合成農薬に依存しており、環境に配慮した栽培が遅れている。そこで、鶏ふん等の有機質肥料による化学肥料の削減効果について検証し、慣行と同等以上の効果を確認し、地域全体への普及を図る。また、ドローンによる防除や生分解性マルチ活用の省力化技術についても併せて検証を行い、環境負荷低減技術と組み合わせたグリーンな栽培体系として普及を図る。

現在の栽培体系

月	7	8	9	10	11	12	備考
主な作業名	基肥 育苗	定植	追肥 農業散布		収穫・風乾 マルチ回収	調製・出荷	
技術名	普通マルチ 化学肥料(基肥)		化学肥料(追肥)				

グリーンな栽培体系

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名	基肥 育苗	定植	追肥 農業散布		収穫・風乾	調製・出荷	
技術名	生分解性マルチ 有機質肥料(基肥)		有機質肥料(追肥) ドローンでの農業散布				

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	19.6	20	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.5	1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.1	9	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.5	1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	普通マルチ	生分解性マルチ	労働時間の削減
環境	化学肥料のみの栽培	追肥で有機質肥料を使用	化学肥料の使用量低減
省力	背負い動噴、ブームスプレーヤー等での防除	ドローン防除	労働時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指 標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	マルチ栽培での回収作業の削除	54分/10a /3人	▶ 0分/10a	現状値 慣行栽培の施肥基準 目標値 普通マルチを生分解性マルチに代替
環境	化学肥料使用量の低減	N=15kg/ 10a	▶ N=9.38kg/ 10a	現状値 慣行栽培の施肥基準(N15-P14-K14) 目標値 追肥を有機質肥料に代替(N15-P9.4-K9.4)
環境 省力	ドローン防除による農薬散布時間削減	42分/10a	▶ 25分/10a	現状値 農薬散布延べ時間（動力噴霧器、7回） 目標値 ドローン防除(7回)への切替

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

管内でのグリーン農業の普及、定着に向け、今回の実証結果をHP等を活用して、生産者へ広く周知を図る。また、栽培講習会や時期別管理情報の発信を行う際に、グリーン農業技術を随時紹介し、取り組みを促していく。

関係者の役割

関係者名	福井県福井農林総合事務所	JA福井県	福井市 永平寺町	
役割	技術の普及 ・栽培講習会の開催 ・管理情報の発信	技術の普及 ・栽培講習会の開催 ・管理情報の発信	技術普及に向けた支援	